

## ● 西日本支部

西日本支部では1992年から2010年夏までに次のような活動を行ってまいりました。以下に、開催年月日、活動の名称、会場、講演者・研究発表者の氏名（敬称略）、タイトルを記しております。

活動の名称につきましては必ずしも一定しておらず、例えばこの間ずっと毎年6~7月に講演会を行っておりますが、その時々によって「談話会」「講演会」「例会」と、その呼び方はまちまちです。ここでは基本的に『日本イギリス児童文学学会会報』に報告された名称を尊重し、特に不都合のない限りそのまま記載しました。

また、それぞれの集まりの後には、交流会、支部会、懇親会等、会員間の情報交換と親睦のための場を設けることが多いのですが、ここでは省略しました。

### 西日本支部談話会・講演会・例会

- 1992年6月6日(土) 談話会 於 京都外国語大学  
 講演：「英米児童文学の稀観本をめぐって—京都外国語大学図書館所蔵資料を中心に」  
三宅 興子
- 1993年6月12日(土) 談話会 於 園田学園女子大学  
 講演：「昔話の国際性—「呪的逃走」(AT313)の東西比較を中心に」 三宅 忠明
- 1994年6月25日(土) 談話会 於 大谷学園帝塚山学舎  
 講演：「ヴァージニア・ハミルトン—よみがえるアメリカの女性作家として」  
島 式子
- 1995年6月10日(土) 談話会 於 関西学院大学  
 講演：「トールキン神話の世界」 赤井 敏夫
- 1996年6月15日(土) 談話会 於 梅花女子大学  
 講演：「バジール・レの『ペンタメローネ』と昔話の魔力  
 —〈笑わない王女〉と〈眠る王子〉」 杉山 洋子
- 1997年6月7日(土) 談話会 於 奈良産業大学  
 講演：「「ナルニア国年代記」における「憧れ」の行方」 川崎佳代子
- 1998年6月20日(土) 春の談話会 於 園田学園女子大学  
 講演：「イギリスの子どもの本のなかの日本」 三宅 興子  
 「鯨の捕獲をめぐる海と人間の歴史」 森田 勝昭

- 1999年6月19日(土) 春の例会 於 京都精華大学  
 講演:「オズの国の不安な男たち — 『オズの魔法使い』の男性性」 吉田 純子
- 2000年3月3日(金) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表:「ルーマー・ゴッデンの児童文学作品におけるエンディングの問題性  
 — 大人向け作品との比較を通して」 黒川由香子  
 「シャロン・クリーチ『めぐりめぐる月』に描かれるアメリカ先住民」  
永田 里奈
- 2000年6月24日(土) 例会 於 OAG神戸センター  
 講演:「ハリー・ポッターを読む — 物語との距離」 上野 瞭
- 2000年9月22日(金) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表:「Margaret Mahy *The Changeover* 論 — 魔女像を中心に」 大利かおり  
 報告:「学会報告:オズの100年記念行事に参加して」 矢野真知子
- 2001年3月2日(金) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表:「*The Wiz* — アフリカ系アメリカ人が捉えた『オズ』」 矢野真知子  
 「*Winnie-the-Pooh* における子ども部屋の風景」 福本由紀子
- 2001年6月30日(土) 研究会 於 大谷学園帝塚山学舎  
 講演:「女性と帝国」 井野瀬久美恵
- 2001年9月14日(金) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表:「*The Changeover* におけるマーヒーの魔女像」 大利かおり  
 報告:「ローハンプトン・児童文学サマースクール報告」  
福本由紀子・伊達桃子・鈴木穂波
- 2002年3月1日(金) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表:「イギリス児童文学初期作品における動物コミュニティーの萌芽」  
多田 昌美  
 「Princess Mononoke その2 — 苦難を生きる者」 中戸 一子
- 2002年6月29日(土) 研究会 於 奈良産業大学  
 講演:「ディケンズと『ディック・ウィットントン物語』 — 童話と小説との接点」  
松村 昌家

- 2002年9月14日(土) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表：「昭和初期の *Little Women* 翻訳について  
 — 清涼言『愛の姉妹—リトル・ウイメン』を中心に」 小谷加奈子  
 ミニ講演：「*Tazan of the Apes* にみる男性性の再活性化  
 — 〈野性〉を母とするサバイバル戦略」 吉田 純子
- 2002年11月9日(土) ミニ講演会（日本カナダ文学会と共催）  
於 キャンパスプラザ京都  
 講演：“Canadian Children’s Literature: Its Past, Present, and Future”  
Judith Saltman  
 “Anne, Emily and Me” Kit Pearson
- 2003年3月1日(土) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表：「アーサー・ランサムの *Secret Water* における「異文化」共存の  
 シミュレーション」 松下 宏子
- 2003年7月5日(土) 研究会 於 武庫川女子大学  
 講演：「猫と文学」 堀江 珠喜
- 2003年9月20日(土) 例会 於 梅花女子大学  
 研究発表：「子どもが実感することと、ことばで表現することとのギャップについて  
 — 北原白秋と Walter de la Mare の詩の比較から」 片平 朋世  
 「フィリパ・ピアスのバーリー・ストーリーズ」 藤井 佳子  
 講演：「三つのシーン—2003年夏の旅」 三宅 興子
- 2004年3月6日(土) 例会 於 神戸女学院大学  
 研究発表：「ガヴァネス小説と児童文学」 松岡 美鈴  
 「19世紀初頭の英国児童文学に見る動物キャラクターとその活躍  
 — Elizabeth Sandham の作品を中心に」 多田 昌美
- 2004年7月10日(土) 研究会 於 大阪府立国際児童文学館  
 講演：「イギリスの児童文学はリアリズムから」 神宮 輝夫
- 2004年10月2日(土) 例会 於 梅花女子大学  
 報告：「アジア児童文学大会に参加して」 三宅 興子  
 報告：児童文学作品の舞台を訪ねて  
 「Robert Westall Trail」 三宅 興子  
 「Philippa Pearce’s Great Shelford」 藤井 佳子



- 2008年7月19日(土) 夏の例会 於 西宮市大学交流センター  
 講演：「子どもの本の行方」 ひこ・田中  
 「今、文学について考えること — 書きたい、書けない、そして、書かない」  
三宅 興子
- 2008年9月27日(土) 秋の例会 於 西宮市大学交流センター  
 研究発表：「Pullman の Storytelling」  
 — 現代の視点でヴィクトリア朝社会を映す Sally Lockhart シリーズ」  
小山 明代
- 2009年3月7日(土) 春の例会 於 西宮市大学交流センター  
 研究発表：「英語教材としての幼年文学の可能性」  
 — Anne Fine の *The Jamie and Angus Stories* を中心に」 多田 昌美  
 「児童文学の舞台を訪ねて：ジェフリー・トリーズの「旗の湖」シリーズ  
*No Boats on Bannermere* と *Black Banner Abroad* を中心に」  
松下 宏子
- 2009年7月4日(土) 講演会 於 西宮市大学交流センター  
 講演：「Toy Books：Victorian Popular Picture Books — ヴィクトリア時代に、  
 子どもたちが（おとなも）みていた絵本を見てもみませんか」 正置 友子
- 2010年3月13日(土) 春の例会 於 西宮市大学交流センター  
 研究発表：「*The One I Knew the Best of All* における子どもの想像力と「庭」  
 — Frances H. Burnett の自伝的作品を読む」 松下 宏子  
 「児童文学とキャリア意識：キャリアカウンセリングからの  
 視点による一考察」 鬼塚 雅子  
 「Katherine Paterson 作品にみる “Wounded Healer” 像  
 — *Bridge to Terabithia*, *The Same Stuff as Stars* を中心に」  
吉田 純子
- 2010年7月10日(土) 講演会 於 大阪府立中之島図書館  
 講演：「グリム童話：固定観念を覆す解釈 — KHN21 「灰かぶり」を中心に」  
野口 芳子  
(記・横川寿美子)